

開拓主義と責任感がアルバイトの変更回数に与える影響

岡村祐磨^a 小貫美羽^b 福永光佑^c

要約

本研究では大学生のアルバイト変更回数に着目し、「開拓主義の世界観が強い人ほど、アルバイトの変更回数が多い」、「共同体への責任感が強い人ほどアルバイトの変更回数が少ない」という2つの研究仮説を立てた。大学生を対象に実施したアンケート調査で得られた68件の有効回答について単回帰分析、重回帰分析を行った結果、両方の仮説と整合的で有意な結果が得られた。また、追加的に社会人20人を対象として行った同様の調査では、有意な結果が見受けられなかった。両者の差異を踏まえた、本調査の分析結果の活用によって、日本の労働市場、とりわけ転職市場において企業が有用な施策を練るプロセスの一助となり得ると考える。

JEL 分類番号：D9

キーワード：開拓主義, 責任感, アルバイト, 転職, 世界観

1. はじめに

ほぼ全ての大学生が自身の学生生活の中でアルバイトでの就業を体験するはずであり、また同時に違う職場へと変更をする機会もあるだろう。私たち大学生にとってアルバイトの就業とその変更は身近なものであると言える。しかし、アルバイトの変更には様々な理由が存在する。今回私たちはその変更回数について、開拓主義と共同体への責任感がどのように作用するのかを調査した。この研究の意義は、大学生のアルバイト変更に影響を与える要素を分析し一般化することで、日本の転職市場の分析を可能にし、その拡大に貢献できる可能性を秘めていることである。日本は他の先進国と比べて転職率が低く、終身雇用の慣習が未だ強く根付いている。転職が本人の生活の向上という観点、そして社会全体の適切なリソース配分という観点から見てもメリットがあると考えている。つまり、当研

^a慶應義塾大学経済学部 学部生 yumahammer0426@keio.jp

^b慶應義塾大学経済学部 学部生 miu_0131@keio.jp

^c慶應義塾大学経済学部 学部生 fukunaga1104@keio.jp

究は転職市場の拡大に貢献するという点で社会的意義があると言える。

私たちは大学生のアルバイト変更に影響を与える世界観として、開拓主義と共同体への責任感の二つを取り上げた。尚、世界観については「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質についての認識、感情、判断に関する基本的な過程と枠組み」と定義することとする。（大垣・田中, 2018）そこで我々は「開拓主義的である人ほどアルバイトを変更する傾向にあり、また共同体への責任感が強い人ほどアルバイトを変更しない傾向にある」という研究仮説を立てた。

2. 先行研究

先述した開拓主義と共同体への責任感について、先行研究を述べる。

2.1. 開拓主義

開拓主義の定義については、後藤・齋木・寺田(2018, p.3)を参照し、「その変化が好ましいかどうかはわからないが、未知なものに対して積極的に行動を起こしていく考えを持っている」というものとする。

2.2. 共同体への責任感

共同体への責任感は、広辞苑（岩波書店）の定義を参考にし、「共同体への責任を重んじ、それを果たそうとする気持ち」と定義する。

3. 研究方法

Google Form を利用してアンケートを作成し、LINE, Instagram などの SNS 上で拡散し回答を集めた。集計期間は 2020 年 9 月 1 日から同年 9 月 17 日の 17 日間で、大学生から 68 件の有効回答を得た。

アンケート内容について、質問 1～3 は開拓主義を測る質問であり、4 段階で回答を作成した。質問 4～6 は田中(2006)を参照しつつ作成した、共同体への責任感を測る質問であり、同様に 4 段階で回答を作成した。いずれも値が大きいほど、世界観が強い。

質問 7～9 は経済行動に関する質問であり、転職した回数、外的要因で転職した回数、転職の理由の 3 つを問う質問である。キャンパスの移動などで生じる転職の調査結果への影響を排除するため、外的要因で転職した回数を問う質問も作成した。尚、社会人向けの質問では経済行動に関する質問で、年齢、性別、転職回数、転職理由を問う質問と仮想質問の 5 問を作成した。

得られたデータから、世界観を問う質問を説明変数、経済行動を問う質問を被説明変数として単回帰分析、並びに重回帰分析を行った。

4. 研究結果

表 1 には、平均、標準偏差、最大値、最小値を含む記述統計量を示す。

表 2 については、大学生を対象にしたアンケートのデータを基に単回帰分析を行い、有

意水準 10%以下で有意が得られたもののみをまとめている。

また、開拓主義に関する質問3つを数値化し平均値をとったものを、開拓主義平均値として表3の重回帰分析における説明変数 X_1 とした。同様に責任感平均値を算出し、これを重回帰分析における説明変数 X_2 とした。これらの数値は、単回帰分析でも説明変数として使用している。
(以下、数値は小数第5位を四捨五入)

表1 記述統計量

| | 平均 | 標準偏差 | 最大値 | 最小値 |
|---|--------|--------|-----|-----|
| ① | 2.5294 | 0.9467 | 4 | 1 |
| ② | 2.3382 | 0.9943 | 4 | 1 |
| ③ | 2.7647 | 0.7499 | 4 | 1 |
| ④ | 3.0735 | 0.7918 | 4 | 1 |
| ⑤ | 3.5588 | 0.6274 | 4 | 2 |
| ⑥ | 2.7206 | 0.6827 | 4 | 1 |
| ⑦ | 1.1471 | 1.0746 | 4 | 0 |
| ⑧ | 0.3824 | 0.6866 | 3 | 0 |

注) 各設問の対応する値については「付録 質問票」を参照

表2 単回帰分析結果 (有意が出たもののみ)

| | 説明変数 | 被説明変数 | 係数 | P-値 |
|------|---------|-------|---------|----------|
| 開拓主義 | ② | ⑦-⑧ | 0.1995 | 0.0635* |
| | ③ | ⑦-⑧ | 0.2415 | 0.0909* |
| | 開拓主義平均値 | ⑦-⑧ | 0.3540 | 0.0419** |
| 責任感 | ④ | ⑦-⑧ | -0.2304 | 0.0885* |
| | ⑤ | ⑦-⑧ | -0.3011 | 0.0775* |
| | 責任感平均値 | ⑦-⑧ | -0.5399 | 0.0335** |

注1)**有意水準 5%, *有意水準 10%で有意であることを表す

注2)開拓主義平均値 = (①+②+③) ÷ 3, 責任感平均値 = (④+⑤+⑥) ÷ 3

表3 重回帰分析結果

| 被説明変数 | 説明変数 X_1 (開拓主義平均値) | | 説明変数 X_2 (責任感平均値) | |
|------------------------------------|-------------------------|----------|------------------------|----------|
| | 係数 | P-値 | 係数 | P-値 |
| ⑦-⑧ (アルバイト変更回数- 外的要因による変更回数) | 0.3733 | 0.0272** | -0.5671 | 0.0219** |

注)**有意水準 5%で有意であることを表す

5. 考察

有意な結果が得られたものについて開拓主義では係数が正、かつ共同体への責任感では係数が負であったことから「開拓主義的である人ほどアルバイトを変更する傾向にあり、また共同体への責任感が強い人ほどアルバイトを変更しない傾向にある」という研究仮説と整合的な結果が得られたと言えよう。開拓主義的な人は、新しいアルバイトへの変更とともに訪れるプラスかマイナスかも分からない周囲の環境の変化に対して、意欲的であるのだろう。一方共同体への責任感が強い人は、自分が所属していた職場への影響を考慮するため、転職する傾向が低いものと考えられる。

重回帰分析の結果について、その係数の大きさから、共同体への責任感の方がアルバイトの変更回数に与える影響が大きいことも明らかとなった。

6. おわりに

本研究の両方の研究仮説に整合的で有意な結果が得られた今回の大学生を対象とした調査に加え、我々は追加で「転職活動に開拓主義と責任感が与える影響」を調べるために社会人20人を対象にしたアンケート調査も並行して行った。結果としては、被説明変数である転職回数と、開拓主義・責任感のいずれとの間にも相関性は見られなかった。まず、サンプル数の差が影響した可能性もここで明示しておく。以下ではサンプル数の影響を除いた、その他の要因について考察を行うが、ここでは大学生のアルバイト変更と社会人の転職活動の相違点を軸に分析していきたい。

大学生を対象としたアンケートの⑨（アルバイトを変更した具体的な理由）では「店長・バイト仲間と反りが合わなかった」と回答する人が多く見受けられたのに対し、社会人を対象とした同調査で「上司・同僚と相性が悪かった」のような回答をした人は1人も居なかった。この結果から、一般的に中長期間働くことを前提として入社しており、かつアルバイトに比して仕事で関わる人数が多いため、多様な人間が居て当たり前の環境で働く社会人は、もし相性の悪い人がいても比較的長いスパンで関係改善を図るのではないかと想定される。より良い条件を求めて、容易に環境を変えられる大学生のアルバイトとは異なり、一生を左右する転職という行動においてはより慎重になる点こそ、開拓主義との相関が見られなかった要因であることが考えられる。

また、責任感と転職回数との間に有意な関係が見受けられなかった点については、我々の設定した「共同体への責任感」と「自身の仕事に対する責任感」の乖離が主な要因であると考えられる。社会人の仕事は、大学生のアルバイトに比して成功の対価と失敗のリスクが高いため、平均的な自身の仕事に対する責任感が高いと想定される。故に、一般的な共同体への責任感と社会人の仕事に対する責任感の包含する領域は分けて考えるべきであり、それが今回の研究結果に影響した可能性が考えられる。

今回の研究を通じて、大学生におけるアルバイトにおいては開拓主義・共同体への責任感が有意に働いていること、また学生アルバイトと社会人の転職活動の差異が明らかとなっ

た。転職市場の拡大に貢献するという我々の目標のもと、当研究は今後の社会人の転職活動に主眼を置いた調査に繋がるものであると確信している。

付録 アンケート質問票

※尚、①から⑥の選択肢に付随する括弧内の数は、世界観の大きさを数値化したものである
<大学生・社会人共通>

Q1～Q6 では、質問がご自身にどの程度当てはまるかを、直感で選択してください。

- ① あなたは1人でご飯を食べにいくときに、行き慣れた店に行こうと思いますか。それとも、情報のない新しい店に行こうと思いますか。ただし、時間的に十分な余裕があるものとしします。

(新しい店に行こうと強く思う(4), 新しい店に行こうと少し思う(3), 行き慣れた店に行こうと少し思う(2), 行き慣れた店に行こうと強く思う(1) から選択)

- ② あなたは数ヶ月ぶりに美容院に来たとします。あなたに髪型を変えるための十分な髪の長さなど余裕があるものとして、髪型を今までと変えようと思いますか。それとも、今までの髪型を維持しようと思いますか。

(髪型を変えようとして強く思う(4), 髪型を変えようとして少し思う(3), 今までの髪型を維持しようとして少し思う(2), 今までの髪型を維持しようとして強く思う(1) から選択)

- ③ あなたは一般に未開拓の分野に挑戦したいと思いますか。ただし、挑戦した結果良い方向進むかは分かりません。

(とてもそう思う(4), まあまあそう思う(3), あまりそう思わない(2), 全くそう思わない(1) から選択)

- ④ 自分が得するために頑張るよりも、チームのために頑張る方が大事である。

(とてもそう思う(4), まあまあそう思う(3), あまりそう思わない(2), 全くそう思わない(1) から選択)

- ⑤ どんなことでも、始めから最後までやり通す事は素晴らしいことだと思う。

(とてもそう思う(4), まあまあそう思う(3), あまりそう思わない(2), 全くそう思わない(1) から選択)

- ⑥自分がやって楽しいことより、大事なことを先に優先すべきだ。

(とてもそう思う(4), まあまあそう思う(3), あまりそう思わない(2), 全くそう思わない(1) から選択)

<大学生用>

Q7～Q9 では、あなたがアルバイトを変更した経験についてお伺いします。

- ⑦ アルバイトを変えた回数を選択してください。

(0回, 1回, 2回, 3回, 4回, 5回以上 から選択)

- ⑧ この変更回数のうち、外的要因*による変更回数をお答えください。(*外的要因とは、アルバイトに関連する理由以外を指します。具体的には、大学のキャンパスが変わったから、

引越したからなどが挙げられます。)

(0回, 1回, 2回, 3回, 4回, 5回以上 から選択)

⑨ アルバイトを変更した具体的な理由をお答えください。(記述式)

<社会人用>

Q7~Q11では, あなたの転職に関する経験についてお伺いします。

⑦ あなたの年齢を数字のみでご回答ください。(35歳の場合, 35 と回答してください)

(数値入力型)

⑧ あなたの性別を選択してください。

(男性, 女性 から選択)

⑨ 今まで転職した回数を数字のみでご回答ください。転職された経験のない方は「0」とご回答ください。(数値入力型)

⑩ 上の質問で1回以上とご回答頂いた方に質問です。具体的に, 転職するに至った理由についてご記入ください。転職された経験のない方は「なし」とご回答ください。(記述式)

⑪ 仮に, あなたが以下のような状況にあるとします。あなたは現在所属する会社に対して, 給与面で満足していません。また人事評価上, 適正な評価を受けられず, 自分と同じパフォーマンスの同僚が昇進できているにも拘らず, 自分は昇進できていないのが現状です。しかし, 現在担当しているクライアントへの影響も踏まえると, 転職するかどうか悩ましいところです。このような状況であなたならどのように行動しますか。

(確実に転職する, 転職したいと思うが, 行動するかはわからない, あまり転職したいとは思わない, 全く転職したいと思わない から選択)

引用文献

大垣昌夫・田中沙織, 2018. 行動経済学. 有斐閣, 東京.

田中昭夫, 2006. 小学校高学年児用社会的責任感尺度の作成, 島根大学教育学部紀要(教育科学) 第39巻

後藤悠大・齋木健将・寺田瑞, 2018. 開拓主義が SNS 広告に与える影響, 慶應義塾大学経済学部